

NPO 法人岡崎がくどうの会

放課後児童支援員都道府県認定資格研修レポート

科目①『放課後児童健全育成事業の目的及び制度内容』
科目②『放課後児童健全育成事業の一般原則と権利擁護』
科目③『子ども家庭福祉施策と放課後児童クラブ』
科目④『子どもの発達理解』
科目⑤『児童期（6歳～12歳）の生活と発達』
科目⑥『障害のある子どもの理解』
科目⑦『特に配慮を必要とする子どもの理解』
科目⑧『放課後児童クラブに通う子どもの育成支援』

科目⑨『子どもの遊びの理解と支援』
科目⑩『障害のある子どもの育成支援』
科目⑪『保護者との連携・協力和相談支援』
科目⑫『学校・地域との連携』
科目⑬『子どもの生活面における対応』
科目⑭『安全対策・緊急時対応』
科目⑮『放課後児童支援員の仕事内容』
科目⑯『放課後児童クラブの運営管理と運営主体の法令の遵守』

【クラブ】（ 風の子クラブ ） 【名前】（ 川原郁美 ）

全 16 回の講義で心にのこったことや気づいたことや学んだこと、今後の実践に活かしていきたいことなど、感想もふくめてお書きください（自由記述）。

今回の研修をとおして印象に残ったこと、学んだことが 4 つあります。

1 つ目に、放課後児童クラブや学童保育所の位置づけとして、ただ子どもを預かって保育をして保護者の帰りを待つだけの場所ではなく、文化的活動や高学年と低学年のかかわり、指導員という身近な大人とのかかわりなどから子どもの心身の発達を支援していく場であるということをあらためて学びました。また、遊びをとおして、日本文化に親しんだり、危険を自ら判断して回避できるようになったり、子ども同士の信頼関係を育んだりできることに気づきました。これらができる環境を整え、援助していける指導員になりたいと思いました。

2 つ目に、子どもの成長と発達について学んだ際には、成長と発達について、発達は「自分で自分を変えていく過程」だということを知りました。そのためには、子ども自身が自分のことを素敵な存在だと思い、周りからも思われること、自分のことをわかろうとして受け止めてくれる大人（存在）がいることが重要だということも学びました。子ども達にとっての放課後の生活が、有意義で充足感のあるものとなり、心身ともに発達していけるように援助していきたいと思います。また、子どもの興味・関心、好きなものはなにかを探って、発達の土台を作っていくことが必要だと学びました。

3 つ目に、虐待をしてしまう保護者や、非行に走ってしまう子どもがいたら、その姿だけを見るのではなく、そうなってしまった背景になにがあるのかということまで思いを巡らせることが重要だと学びました。また、日本のあらゆる福祉の面での支援システムの足りなさをあらためて感じました。

指導員としてできることから少しずつ、子どもや保護者の思い、姿を謙虚に受け止めて理解しようとする、子どもの自己肯定感が高められるように、体験の共有と、子どもから自分自身も学ぶことを実践していこうと思います。

4 つ目に、子どもの安全を守るためにどうすることが大切なのかを知ることができました。「命を渡すことが使命」という言葉は印象深く、今後保育をしていくうえで心にとめておきたいと思います。事故にあったり、怪我をしたりしたときには、発生する前にどんな

配慮ができたのか、これから気を付けるべきことはなんなのかを振り返ることが必要だということがわかりました。風の子が分割されれば、私は主に2階部分での保育をすることになります。重大な事故が発生する可能性が高まります。重大な事故や怪我を未然に防ぐように努めていきます。